

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26590024

研究課題名(和文) 中東・湾岸世界における包摂的未来共生秩序の模索 - 「壁」を超える勇気と政策の醸成

研究課題名(英文) Toward a more inclusive future-oriented coexistence order in Middle East and Gulf Region - Nurturing the courage and policy to overcome "walls"

研究代表者

星野 俊也 (Hoshino, Toshiya)

大阪大学・国際公共政策研究科・招へい教授

研究者番号：70304045

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：中東・湾岸地域における「未来共生秩序」(=未来志向の包摂的な共生秩序)の形成に向けた人々や国家を分断する「壁」を乗り越える“勇気”や“政策”の重要性に着目する本研究において、短期的には暴力的過激主義や自国中心主義による対立のエスカレーションが見られるが、より中長期的な取組に、1)マクロの外交戦略とミクロの公共教育戦略の役割を統合した「未来共生」アクティブ・ラーニングの導入、2)未来共生教育の実践的取組として宗教指導者間の対話や若年時からの異文化交流体験プログラムの開発の組み合わせを、マクロのトップダウンの取組とミクロのボトムアップとを融合した取組として有意義であることを確認することができた。

研究成果の概要(英文)：This study is intended to explore the importance of "courage" and "policies" to overcome "walls," both physical and mental, that divide peoples and states and establish a future-oriented inclusive co-existence order in Middle East and the Gulf region. A particular attention is given to the combination of macro-level diplomatic strategies and micro-level public education strategies. The study identified the utility of active learning, with special emphasis on youth intercultural experiences as well as religious leaders' interfaith dialogue. This mix of top-down and bottom-up initiatives will generate more humane, inclusive and long-lasting trust relationship in this turbulent region of Middle East and the Gulf.

研究分野：国際関係論

キーワード：包摂的未来共生秩序 中東・湾岸地域 壁 国連安全保障理事会 アクティブ・ラーニング 宗教間対話 異文化交流体験

1. 研究開始当初の背景

(1) キリスト教、ユダヤ教、イスラム教という、相互に関係性を持ちながらもいずれも一神教として発展してきた宗教の発祥の地であり、それゆえに対立と紛争の絶えない中東・湾岸地域では、研究開始当初から揺れに揺れていた。イスラエルとパレスチナの和平交渉は一進一退を繰り返し、サウジアラビアとイランは緊張の度を高め、イラクとシリアでは両国にまたがる地域ではイスラム教過激組織 IS (イスラム国) が実質的に領域支配を行い、近代の国際秩序にアンチテーゼを突き付けるなど、大きな歴史の動きがエスカレートしていった。もとよりこうした事態を引き起こしたのは人間である。その結果、内戦や政情不安によって常居地を失い、難民、移民、避難民として厳しい境遇に置かれることにもなったのも人間である。とりわけ人間の心の中の恐怖・怒り・屈辱といったネガティブな感情による心の「壁」の高まりが情勢の混迷を深めていった。

(2) 人間の感情は、しかし、ネガティブなものだけではないはずである。また、人間には、過去と現在に束縛されるだけでなく、未来の時間軸に思いを馳せ、互いへの敬意と感謝と希望をいだき想像力も備わっている。このまま放置をすれば、負の感情のスパイラルに巻き込まれない人々の心の壁を打ち破り、より建設的な交流に着手するその“勇気”をいかにすれば引き出すことができるのか、そうした勇気を醸成する政策とは何か。

混迷する中東・湾岸地域の情勢は他人ごとではなく、グローバルなレベルで不安定を導き出す。現状打開の必要性をひしひしと感じるなかで、本研究を構想した経緯がある。

2. 研究の目的

(1) 歴史的なうねりの中で民族・宗教・宗派をめぐる対立と暴力が後を絶たない中東・湾岸地域において物理的・心理的な「壁」(=「共生否定」の象徴的な存在)を乗り越え、「未来共生秩序(=未来志向の包摂的な共生秩序)」を形成していく“勇気”と“政策”をいかに推し進めていくかを考察する本研究では、国際公共政策、言語文化・人間科学の知見を融合し、学術と政策の両面から現状分析と提言をまとめることを目的とする。その際、マクロの戦略的なレベルとミクロの共生の観点を組み合わせることにより、未来共生秩序に向けた政策要件と教育プログラムの検討を行った。

3. 研究の方法

(1) まずは、中東・湾岸地域の各アイデンティティ・グループ間の相関関係を明らかにし、国際安全保障論及び言語文化研究の観点から物理的・心理的な「壁」がどこにどのように作られているのかを概観した。それとともに、「壁」が作られる源泉として、国際関係論や地域研究の知見に教育学の観点も盛

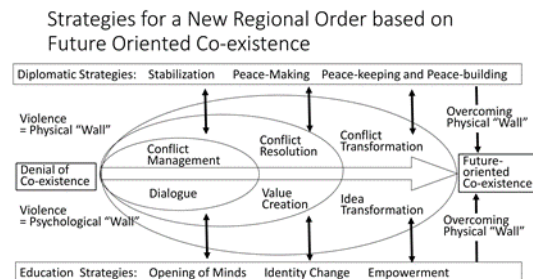
り込み、各アイデンティティ・グループ間の差異の認識や現状での優劣関係が変更されること(=現状変更)に対する恐怖の存在をあぶり出し、「共生否定」の克服(すなわち、他者への否定的な認識とは別次元の「理解」と「敬意」という建設的な認識への転換)に向けた国際協力政策や教育プログラムのあり方を議論する土台を作った。

(2) イスラエル及びパレスチナ地域の現地調査も行い、カタール大学の研究チームの強力も得て、資料収集や現状分析の一助とした。なお、本研究は、「未来共生秩序」形成の一般的な理論と政策を検討することも目的の一つであるため、中東・湾岸地域とは異なる地域(主に東南アジア地域やアフリカ)での動向についても副次的ながら注意を向けて分析した。

4. 研究成果

(1) 中東・湾岸地域における「未来共生秩序」(=未来志向の包摂的な共生秩序)の形成に向けた人々や国家を分断する「壁」を乗り越える“勇気”や“政策”の重要性に着目する本研究だが、現実の世界では本研究期間中もシリアでの化学兵器の使用とそれに対する米英等の軍事作戦、イスラム教スンニ派過激組織 IS (イスラム国)による連続テロ、トランプ米政権による在イスラエル米大使館のエルサレム移転及びイラン核合意からの撤退の検討など国家の一方的な行動とそれによる人々の犠牲、また、人々を分断する物理的・心理的な「壁」の存在とエスカレーションなどが進み、本研究の学問的・実務的な意義はますます再確認されることとなった。

(2) 互いの差異への恐怖を相互理解と敬意へと転換する勇気を醸成する戦略の必要性がますます高まるなか、萌芽的ではあるが国民和解、対話、脱過激化、穏健主義の醸成、テロ対策などのための積極的な動きもあり、いかなる政策がいかなる効果を及ぼすのかを実証的に深めていく素材や課題も明確化されてきた。他方、国連安保理の常任理事国間の分裂と対立、主要国の単独行動外交など、予断を許さぬ動きも再び勢いを見せてきた。



(3) 本共同研究で打ち出す「未来志向の包摂的な共生秩序」形成の戦略は、上図に示されたロードマップにそった3つの段階を想定した。特に、1) マクロの外交戦略とミクロの公共教育戦略の役割に着目し、「未来共

生」をキーワードとするアクティブ・ラーニングの導入、2) 未来共生教育の実践的取組として宗教指導者間の対話や若年時からの異文化交流体験プログラムの開発という具体的な事業を通じ、マクロのトップダウンの取組とミクロのボトムアップの取組の融合例として確認するなど、そのメカニズムの考察の方法について深掘りを行った。

このプロセスは3つ相互にシンクロするフェーズ、すなわち、「安定化と心の解放」、「平和創造とアイデンティティ変化」、「平和構築とエンパワメント」の各フェーズを継ぎ目なく、成果を蓄積していく作業として計画をしていくことを提唱する。

第一フェーズでは、物理的な暴力という壁に対して紛争管理の観点と心理的な暴力という壁から当事者を解放するための対話(特に宗教・宗派・民族間対話)をシンクロさせることにより、心の扉を開き、現状の対立関係を変更する心の準備を解きほぐすプログラムを集中的に実施することを提案する。この結果、政治環境と心理環境の安定化の土台が形成される。

第二フェーズでは、自己と他者という区別に基づくアイデンティティを見直すプロセスを導入する。一般に対立は自己と他者との区別のなかに存在するが、自分が他者の一部であり、他者も自分の一部を構成するというアイデンティティ自体の変更にも目を向ける事業を提案する。

第三フェーズでは、権力関係や利益関係の変化による紛争のトランスフォーメーションと、発想の転換による対立関係のトランスフォーメーションをシンクロさせるためのエンパワメントを進めることにより、包摂的な共生の理念に基づく平和構築プロセスへとステップを進めていく。

以上の3フェーズと三つのシンクロされたプロセスが常にスムーズに進むとは限らない。しかし、物理的・心理的な「壁」の克服をめざすこと、それをマクロの戦略的レベルとミクロの公共教育レベルでシンクロさせることが必要で、そのどちらが欠落しても平和の持続が難しいことを本研究ではあきらかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

星野俊也、日本のODAと「人間の安全保障」、国際問題、No.637、2014、5-14

星野俊也、"Proactive Contribution to International Peace" Japan's Cooperative Strategy as a "Natural" Country," Economy, Culture & History Japan SPOTLIGHT Bimonthly, May-June 2014

星野俊也、日本と国連の60年 - その成果と展望、国連は「戦後」を超えられるのか - 創

設70年の変容と展望、外交、34巻、118-125
近藤久美子、何がイスラム国へ駆り立てるのか、日経ビジネスオンライン、2014年目m
<http://business.nikkeibp.co.jp/article/opinion/20141224/275578/>

近藤久美子、アラブ地域における夢の伝承、怪異を媒介するもの--アジア遊学、187号、2015、272-286

近藤久美子、中東における部族・戦争と宗派、喧嘩から戦争へ 戦いの人類史--アジア遊学、189号、2015、96-104

平沢安政、未来共生学の構想と課題、未来共生、第1巻、2014、51-79

平沢安政、人権教育と市民力:市民性教育をめぐる研究の成果と課題、部落解放研究、第200号、2014、47-58

辻田俊哉、イラン核合意と中東における地域秩序 「機会」と「脅威」をめぐる認識の相違とその含意、国際安全保障、43巻3号、2015

辻田俊哉、中東の安全保障構造 都市化の傾向とレジリエンスの視点をふまえて、アジアワールド・トレンド誌、256巻、

〔学会発表〕(計6件)

辻田俊哉、イスラエルの対イラン脅威認識の変遷、国際安全保障フォーラム・イン・関西2014、2014年6月21日

星野俊也、創設70周年の国連とその課題 第1セッション「国連が直面する安全保障分野での課題」、日本国際連合学会第17回研究大会、2015

星野俊也、Towards a More Inclusive International Order in the Middle East: Conversing Macro and Micro perspectives, International at the Symposium: "Towards Multiculturalism, Coexistence, and Growth in the Middle East," January 127.

辻田俊哉、イスラエルにおけるサイバーセキュリティ政策 アイアンドームから「サイバードーム」への展開可能性、国際安全保障フォーラム・イン・関西2015、2015年6月

近藤久美子、日本アラビア語教育学会設立の経緯と必要性、アラブ・イスラーム学院、2016年12月

近藤久美子、The Native Language and the Identity: Around the word 'Arab', International Symposium: "Towards Multiculturalism, Coexistence, and Growth in the Middle East," 2017年1月16日

〔図書〕(計4件)

星野俊也、神余隆博、他、信山社、『安全保障論 - 平和で公正な国際社会の構築に向けて - 』、2014、621

星野俊也、他、大阪大学出版会、『グローバルizmと公共政策の責任 第1巻 平和の共有と公共政策』2016、258

近藤久美子、他、楽瑯書院、『神話・象徴・儀礼』、2014、370

辻田俊哉、他、ナカニシヤ出版、『国際政治

のモラル・アポリア 戦争/平和と揺らぐ倫理』、2014、350

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星野 俊也 (Hoshino, Toshiya)
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・招へい教授

研究者番号：70304045

(2) 研究分担者

平沢 安政 (Hirasawa, Yasumasa)
大阪大学・大学院人間科学研究科。教授

研究者番号：50243150

近藤 久美子 (Kondo, Kumiko)
大阪大学・大学院・言語文化研究科・教授

研究者番号：90273739

辻田 俊哉 (Tsujiita, Toshiya)
大阪大学・CO デザインセンター・講師

研究者番号：90644401